

朝日新聞

第4回

「お母さん、生きてるの？」 インスタに投稿した夢と消えない苦しみ

有料記事

小幡 淳一 2025年7月11日 6時00分

コメントプラス

インベカヲリ★さんのコメント



「事件で人生は大きく変わる。被害者はその人生を生き続けなければいけないのです」

ストーカー被害に遭っていた女性(48)は27年前の1月、群馬県群馬町(現高崎市)の自宅で、両親と祖母を殺害された。

「自分のせいで家族は亡くなった」。月日が流れても、自らを責め続ける思いは変わらない。



殺害された女性の両親=遺族提供

毎朝、線香を供え、手を合わせることから一日は始まる。事件後は何年も不眠症に悩まされた。今でも事件に触れるようなことがあると、心臓がドキドキする。毎年、年末ごろから決まって体調が悪くなる。

事件が起きた日は母の48歳の誕生日だった。午後9時ごろ、プレゼントの花束を抱えて帰宅したところ、背後から襲われた。殺人容疑で指名手配されている小暮洋史容疑者(55)だった。口をふさがれ、祖母の部屋に引きずり込まれた。上から覆いかぶされ、押さえ込まれて身動きができなかった。約1時間半後、落ち着きがなくなった小暮容疑者は「そこから動くな」と言い残し、立ち去った。

「恐怖より、何とかしなければと必死だった」。家族は別の部屋で縛られ、声を上げられない状態になっていると思っていた。惨状を知ったのは警察署でだった。

女性は高校卒業後、高崎市内のドラッグストアで働いていた。小暮容疑者は週2回、店に荷物を搬入してくる運送会社の社員だった。

無口でまじめな印象だった。しつこく誘ってくるようになり、まとわりつかれた。自宅が割り出され、いきなりやって来ることがあった。電話は毎晩のようにあった。

【地図で見る】全国の未解決殺人事件 →

殺人事件の時効が廃止されてから今年で15年。未解決の殺人事件の真相解明の一助になることを目指し、事件を一覧できるページを作成しました。各事件のリストでは、情報提供ができる電話番号も掲載しています。

上司らは女性に近づけないように配慮してくれた。つきまといはいったん収まったものの、事件直前、突然、店にやってきた。深夜に無言電話が鳴り響き、マイカーには「会いたい」と書かれた手紙が置かれた。行為はエスカレートしていった。

「ストーカーという言葉自体が浸透していなかった時代。警察など公的機関を頼る発想はなく、自分で何とかしなければという感覚だった。もっと危機感をもつべきだった」

Instagramで情報発信

事件後、女性は仕事を辞め、新しい環境での生活を余儀なくされた。周囲は女性を1人にさせないように気を配ってくれた。「被害者は私だけではない。親戚も同じ。犯人が再び襲ってくる可能性もあり、強い不安や恐怖を与えてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいだった」と振り返る。



1998年1月に一家3人が殺害された群馬県群馬町（現高崎市）の現場。建物があった場所にタンポポが咲いていた=2025年4月14日午後3時55分、群馬県高崎市、小幡淳一撮影 

女性は2022年12月からInstagram（cold_case_1.14）での情報発信を始めた。事件の風化を防ぎ、若い世代にも知ってもらいたいという思いからだ。忘れられない出来事も投稿してきた。

例えば事件から約1カ月後に見た、母親の夢。楽しそうにおしゃべりしていたのに、「えっ、お母さん生きてるの？」と言った瞬間、霧のように消えてしまった。以来、夢でも会えなくなった。

墓参りをした時にたまたま出会った父親の幼友達から思い出話を聞き、涙があふれたことや、事件直後に覆面パトカーに乗り込む際、兄が力強く励ましてくれた思い出なども紹介した。

女性は3月に母と同じ48歳になった。「今年の誕生日は感慨深かった。（母にとっては）子どもたちが自立し始め、人生のちょうど折り返し。これからどのように楽しもうかと考えていた時に突然命を絶たれた。悔しかったと思う」



殺害された女性の祖母=遺族提供 

事件から四半世紀が経ち、ようやく自分自身を客観的に見られるようになったという。事件がなければ、自分も両親たちも全く違う人生だったはずだ。自責の念は消えない。

時効は10年に撤廃され、今も捜査が続く。女性は「(犯人は)生きていて、心があるのならば、警察に出頭して欲しい」と願う。「被害者の悲しみや苦しみは何十年も永遠に続く。時間が経てば刑事責任を問えなくなる時効はそもそもおかしかった。人の命は時間では計れないのだから」

群馬県の旧群馬町で起きた一家3人殺人事件

女性の両親(ともに当時48)と祖母(同85)の3人は1998年1月14日夜、群馬県群馬町(現高崎市)の自宅で殺害された。

県警は女性にストーカー行為をしていたとされる元トラック運転手の小暮洋史容疑者(55)を殺人容疑で指名手配。有力情報の提供者らには上限300万円の捜査特別報奨金が支払われる。

小暮容疑者は黒い日産シルビア(群馬33も8670)で逃走し、群馬県太田市の利根川にかかる「刀水橋(とうすいばし)」から埼玉方面へ向かったのを最後に行方がわからなくなっている。

この記事を書いた人

小幡 淳一
前橋総局

 フォロー



専門・関心分野

事件、マラソン、防災、農業、料理

コメントプラス

[注目コメント試し読み>](#)インベカヲリ★ (写真家・ノンフィクションライター) 2025年7月11日14時5分 投稿

【視点】ここまで身元がハッキリしていて、逮捕されていないということに驚いてしまった。犯人がどこかで生きているかもしれない考えると、被害者はどれほどの恐怖を抱えているだろう。 […続きを読む](#)

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.